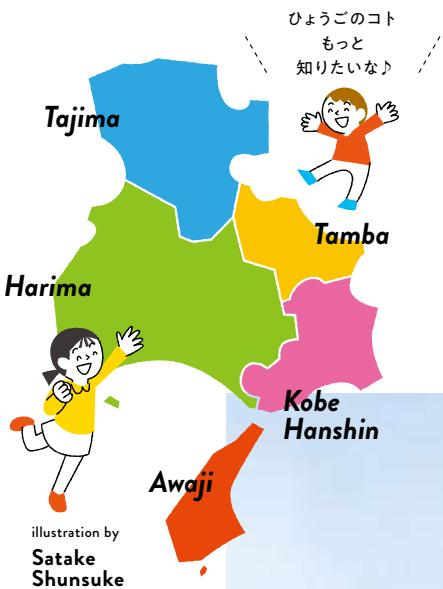


ひょうごの 見えてみよう

vol. 8

ひょうご
地域創生
通信

MAR. 2023



INDEX

スペシャルインタビュー

貴島 明日香さん
サタケシュンスケさん

- 地域創生戦略会議の田林信哉座長に聞く!
これからの兵庫県に期待すること
- [学ぶ] 先進的な理数教育を実践
- [働く] IT技術で地域の課題を解決

- [住む] 古民家再生、空き家活用

- ひょうごフィールドパビリオン
地域の魅力を現地で体感!
- 「HYOGO eスポーツフェスタ in 城崎温泉」大会レポート

SPECIAL INTER

スペシャルインタビュー

今も神戸で暮らす 友達がたくさんいます

高校在学中からモデルの仕事を始めた貴島明日香さん。上京してからも仕事で兵庫に帰る機会は多いのだとか。

「先日、日帰りの仕事で神戸に帰ってきた時も新神戸駅まで母がお弁当を作つて持つてくれました。友達も地元にいる子が多いんです。大阪で働いている子も、住んでいるのは神戸なので、こちらに来るたびに会っています」

東京に出たからこそ、改めて地元の魅力が見えてきたという貴島さん。

「住んでいるときはあまり実感することは

なかったのですが、海と山がすごく近くにあって、その中におしゃれな街もあって、すごくいい場所だなと改めて思いました。あと私が住んでいた長田には、個人で経営されているパン屋さんがたくさんあって、そこも魅力的です。『トライやる・ウィーク』という職場体験の授業でもパン屋さんに伺いました」

中学・高校生のときは三宮でプリクラを撮ったり、服を買ったり。

「私が通っていた舞子高校には環境防災科というのがあって、私は普通科だったんですけど、私が入学した年に東日本大震災が3月にあって、環境防災科の生徒はボランティアで東北に行って、すごい経験だった

という話を聞きました。高校時代は、ふらつと須磨の海岸に行って、明石海峡大橋を眺めながら、友達と自販機でカフェオレを買ってずっと喋っていましたね」

兵庫県は広くて 場所ごとの魅力がたくさん

県内の他の地域へは、遠足や家族旅行で訪れていたという貴島さん。

「小学生の頃は東条湖おもちゃ王国は毎週行きたいくらい楽しかった！あと家族で行った有馬温泉はすごく思い出に残っていますね。雪が積もっていて、県内でもこんなに景色が違うんだと思いました。遠足では神戸布引ハーブ園、須磨浦公園といろいろ行

Kijima Asuka

神戸出身

モデル・女優

貴島 明日香さん



「東京に出て改めて
兵庫の良さを実感
地元を誇りに思います」

VIEW

兵庫県で子ども時代を過ごし、県外に出て活躍するモデル・女優の貴島明日香さん。
兵庫県で育ち、県内で仕事をし子育てをするイラストレーターのサタケシュンスケさん。
それぞれの分野で活躍するお二人に、兵庫県の暮らしやすさやその魅力を伺いました。

きましたね。姫路はゆかたまつりの印象。淡路島は高校入ってすぐの合宿や家族旅行で。城崎温泉は、事務所の旅行でおそばを食べたり温泉に入ったり。日本海側と瀬戸内海側で同じ兵庫県でも全然違って、その分の魅力はたくさんありますね。広いからまだ知らないこともたくさんあって、場所によつてそれぞれ違つた魅力がありますね」

将来、子育てするなら兵庫に帰りたいという思いもあるのだとか。

「私は19歳で東京に出てきたので、子育てのしやすさという観点で地元を見たことはなかったのですが、親も友達も、住みやすいし子育てしやすいと話しています。一生をそこで過ごせる街だと思いますね」



[PROFILE]

きじま あすか◎1996年2月15日、兵庫県神戸市出身。高校時代からモデル活動を始め、卒業後東京へ。2017年～2022年の5年間、日本テレビ系「ZIP!」で7代目お天気キャスターを務め、人気を博す。2018年9月より「non・no」専属モデルに。2022年8月からABEMAの公式アナウンサーに就任。自身のyoutubeチャンネル「あすかさんち。」やゲーム実況配信サービスOPENREC.tvでは、ゲーム好きとしての素顔も見られる。



「楽しそうに働いている姿を子どもには見てもらいたいです」



神戸の自宅の近くに事務所を構え、出版や広告イラスト、キャラクターデザインの仕事をしているサタケさん。「15年くらい前までは、実際に会わないとできない仕事もあつたり、デジタル対応もできていなかつたりと、ハンデを感じることもありました。今はどこに住んでいても関係ないと感じています。一方で、神戸市や兵庫県など、地域ならではのお仕事もいただくようになりました」

子どもが生まれてから、学習教材など子ども向けの仕事が増えたのだろう。「わかりやすく増えたのは、赤ちゃんを月齢ごとに描き分ける仕事をしてから。自分が育児に携わらないと、この数ヶ月の違いはわからなかつたと思います」。

子どもの頃から絵を描くのが好きだったというサタケさん。「口下手なので、休み時間に絵を描くことで、話しかけてもらうきっかけを作っていました。絵は僕にとってコミュニケーションツールですね」。人が喜んでくれるから描きたいと思う気持ちは今の仕事にそのまま繋がつている。「うちの子どもたちもお絵描きが好きで、紙と鉛筆さえあればずっと描いていますね。子どもたちには気楽に楽しそうに働いている姿を見てももらいたいですね」。

Satake Shunsuke

神戸在住

イラストレーター

サタケシュンスケさん

[PROFILE]

さたけ しゅんすけ◎1981年大阪府枚方市生まれ。兵庫県神戸市在住。2007年に広告制作会社を経て独立。2021年、法人化し、株式会社ひととえ代表取締役に就任。動物や人物をモチーフにデフォルメ表現。代表作にNHK「おかあさんといっしょ ガンバラッパ★ガンバルーン」、ベネッセ「こどもちゃれんじ」「おしゃべりショッポ」などがある。

地域を元気に! ひょうごの取り組み紹介します

兵庫県では、学びや仕事、移住支援など、地域で暮らす人々に向けて多様な支援を行なっています。どんな制度があってどんな人たちが活用しているのでしょうか。さまざまな取り組みについて紹介します。

学ぶ

Learn

SSHと
サイエンスフェア



▽ P. 6-7

働く

Work

ひょうご
TECHイノベーション
プロジェクト



▽ P. 8

住む

Live

移住支援制度



▽ P. 9

SDGs

ひょうごフィールドパビリオン



▽ P. 10-12

eスポーツ

HYOGO eスポーツフェスタ
in 城崎温泉

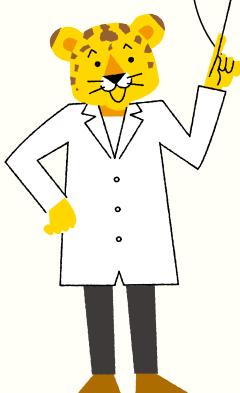


▽ P. 13

第二期 兵庫県地域創生戦略
(2020~2024)の全体像

▽ P. 14-15

学びや仕事、暮らしについて、現在どんな取り組みが行われているのでしょうか。貴島さんや子どもたちと一緒に見ていきましょう。



ひょうごで暮らす
人たちに
会いに行きましょう♪



地域創生戦略会議の田林信哉座長に聞く!

これからの兵庫県に期待すること

2020年から始まった第二期「地域創生戦略」。

中間年となる2022年度は計画の見直しが

行われました。この2022年度地域創生戦略会議の座長に選ばれたのが、Satoyakuba代表田林信哉さん。

田林さんにこれからの地域に期待することや

そのポテンシャルについて伺いました。



撮影協力／BREATH&ROY

地域
創生

Regional
Revitalization



現場でまちづくりをしたいと総務省を退職

総務省で15年ほど地方自治の制度設計の仕事をしていた田林さんは、2020年に家族で丹波篠山市に移住する。「南相馬で副市長をしていたときに、行政や民間、さまざまなセクションの人が力を合わせて街をつくることが大事と感じました。総務省にいるときは人の顔の見えないところで大きな政策を作り、利害関係を調整している感覚でしたが、今は地域の本質的なところに、自分の言葉や考え方でぶつかりでいいので、手応えを感じています」

現在は、丹波焼の窯元50軒でつくる丹波立杭陶磁器協同組合と一緒に産地の活性化に携わる。

「過去から受け継がれてきたものを将来に受け継ぐお手伝いができる。丹波焼は平安時代の終わりから800年続く地場産業。約50軒の窯元さんとコミュニケーションを取って、想いを引き出しながら企画を進めています。自分は外から来てまだ何もわかっていないので、こちらの提案を押し付けるのではなく、まずは話を伺うことを大事にしています」

今そこにいる人が幸せに暮らせる場所であること

総務省退職後、丹波篠山でまちづくりの仕事をしていた田林さんに県が注目し、地域創生戦略会議の委員として声がかかった。社会のトレンドや地域の状況を事務局がデータにして可視化。19人の委員の意見を取りまとめ戦略の中に反映する作業を事務局と連携して進めていった。



丹波焼の郷立杭で登り窯の焼成を見学。丹波立杭陶磁器協同組合の市野達也理事長と。

「コロナ禍になって孤独・孤立の問題や地方への移住の流れというものが出てきた上で、県としてどう取り組むべきか。委員の皆さんのお意見すべてを採用するのは難しいので、エッセンスをいかに取り入れて実効性のある戦略が作れるか考えました」

人口増加を目指す一方、子どもを持たないという選択をする人たちなど多様なライフスタイルを尊重し包摂した内容を目指した。

「今そこにいる人がちゃんと幸せな暮らしを営める状態であれば、おのずと人が移ってくる。新しいチャレンジをする人がいれば応援し、若い世代には寛容に接する。大事なのは、その地域の人たちのマインド。兵庫はその傾向があると思います」

兵庫県の強みは五国それぞれの豊かな歴史や地域資源を持つことだと田林さん。「昔からあるものを自分たちのアイデンティティとして大事にしていくということが力になると思います。それぞれの良さを生かしつつ、県全体で目指す方向を共有しながら、地域が元気になるような取り組みを進めていけるといいですね」

[PROFILE]

田林信哉さん

たばやし しんや 1983年和歌山県生まれ。2005年に総務省入省後、地方自治の行財政制度の企画立案に従事する。2016～2017年、福島県南相馬市で副市長として災害復興に従事。2020年に総務省を退職。丹波篠山市に移住し、株式会社NOTEで歴史や文化を軸にしたエリアマネジメントの仕事に携わる。2021年に独立し、プランナーや地域づくりコーディネートの仕事を手掛ける。

先進的な理数教育を実践

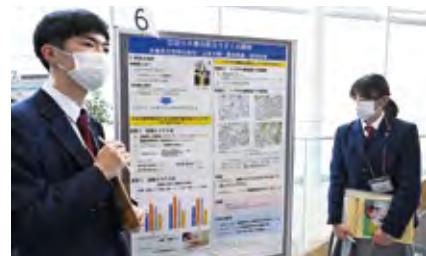
好奇心から探究心へ 生きる力を育む学び



兵庫県には、全国に誇れる学びがあります。全国から注目されるSTEAM教育をはじめ、全国有数の指定校数を持つSSHなどの特色ある学びが充実しています。その取り組みのひとつであるSSH校の発表・交流の場である「サイエンスフェア」に足を運び、兵庫の理数教育について取材しました。

「第15回サイエンスフェア in 兵庫」開催レポート

2023年1月29日、神戸ポートアイランドの4会場で「第15回サイエンスフェア in 兵庫」が開催されました。同イベントはSSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校をはじめ、県内27校の高校生たちが参加。当日は、高校と大学・協力研究機関・企業による口頭発表、ポスター発表が行われました。さらに交流の場としてサイエンスカフェも開催。研究生活について高校生が大学生や大学院生に気軽に相談できる貴重な機会となりました。



ポスター発表の様子

高校生の発表内容

化学

参加全27校のうち3校の口頭発表を紹介します。



〈 加古川東高校 〉

『さばこん』～砂漠の砂でコンクリートを作る～

山下煌生さん、高原信さん、射場遙果さん



地

球の砂漠化問題とコンクリート用の砂が不足している問題の2点に着目。砂漠の砂は粒子が小さくコンクリートとしては強度不足で建築材には向いていないため、先行研究を参照しつつ、砂漠の砂でも従来のコンクリート強度が出せないか実験。

もともと化学分野に興味があったが、最初はテーマが見つからずネットで『いまだ解明されていない科学の謎』などで調べたという。実際に砂漠の砂を取り寄せ、実験を繰り返した。今後は研究内容を英語論文にもまとめる。「自分たちで課題を見つけてアプローチして発表した経験は大学での研究の準備にもなった。さらに設備が整った環境で学ぶことが今からとても楽しみです」(射場さん)

Column

SSHとは

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)とは将来の国際的な科学技術人材を育てるため、先進的な理数教育を実施する学校として国が指定。大学との共同研究、国際性を育むための取り組みを推進している。兵庫県内では15校が指定され、これは東京都の16校に次ぐ全国屈指の指定数となる。

「理数教育」が充実している兵庫県

兵庫県の高大連携について助言されている神戸大学の伊藤教授に兵庫の理数教育について伺いました。「県の規模からしても、15というSSHの学校数はかなり充実していると思います。様々なノウハウの蓄積や人材発掘を行い、ネットワークの中で活発な意見や情報交換を行うことが重要。『咲いテク』事業

神戸大学 人間発達環境学研究科
伊藤真之教授

(高校・大学・企業・研究機関が連携して科学技術人材を育成する兵庫県独自の事業)の長年の蓄積がある兵庫県はそういった面でも大変期待できます。高校で『探究』がカリキュラム展開されるようになり、期待の一方、課題も。それぞれに応じたふさわしい支援のあり方が重要になってくると思います」。

物理



〈 神戸高校 〉

カメラ搭載の自作ロケットの設計

吉井桜さん、瀬口空さん、小澤葵さん、津高秀明さん



火

薬を使った模型のロケットにカメラを搭載して打ち上げ、神戸高校を上空から撮影することを目標にした。火薬を扱うライセンスは講習を受けてメンバー全員が取得。3Dプリンターでパーツを作成し、機体の軽量化のためカメラも変更。結果126メートルの高度を記録し撮影にも成功した。

空に関して興味がある4人。打ち上げのライセンスをとって昨年の6月から取り組み始め、夏休み中も学校に来て話し合ったそう。指導教員の橋本先生は資料探しの手伝いや、ロケットを飛ばす際のグラウンド使用の交渉などでサポート。「自分たちで計画して研究して、それを人前で発表する機会を得られた。これは将来に役立つと思います」(小澤さん)

生物



〈 豊岡高校 〉

人が野生哺乳類に与える影響

井上斗弥さん、岸本大智さん、高階政希さん、加谷太一さん



都

市開発や森林伐採が増える中で、人の手は自然にどんな影響を及ぼしているのか。学校の裏にある神武山(標高49メートル)の哺乳類の生息を調べてその影響や人と動物の共存の方法を探る。

生物分野に興味あるメンバー。「共存」を「互いによる影響を及ぼす」と「互いに影響をしあわない」と定義し考察した。2ヶ月間の予備調査後、7月～12月で研究調査を実施。「テストと違って、実験してデータから結論を導き出す。先生が教えてくれるわけでもない。過去の先輩が残した資料も用いた。思考力がすごく鍛えられた」と振り返る。SSHは予算が柔軟に使えるので、高校のある但馬から離れた大学で研修を受けるときに使用できるのも強みだ。

科学を志す仲間に会える

3年ぶりの開催となった「サイエンスフェア」。一堂に会して情報共有ができる場があることで理数教育の底上げとなる。「違う学校で科学を志す仲間がどんな研究をしているかわかります。受験教育を行わずとも探究・実験しながらおのずと力がついていく。兵庫では理数教育は一部のエリート層向けのものではなく、広く門戸を開きみんなで取り組んでいます」(新谷さん)。「他府県だとSSHは都市部に集中し、そこに行かないとすぐれた教育が受けられないことが多いですが、兵庫では県内広域にSSHがバランスよく点在しているのも強

みです」(西田さん)。社会に出ると求められるのが「ベターな答えをみんなで見つける」こと。探究の姿勢は理数だけではなく、人生において必要な「生きる力」につながります。

兵庫「咲いテク」運営指導委員会



委員長
新谷浩一さん



推進委員長
西田利也さん

高校生の「探究」を
さまざまな面から
サポート!



IT技術で地域の課題を解決 子どもが安心できる 獣害対策の実現へ

県内の起業家や事業者を支援しつつ、地域課題の解決を
公民連携で行う試み「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」が
2022年度に行われました。超音波技術を使って
獣害対策を行っている会社の例をご紹介します。



左)イーマキーナ代表の藤井誠さん。害獣忌避装置を手に。
上)新温泉町の学校では鹿の被害に悩まされていた。

Column



ひょうごTECH イノベーションプロジェクトとは？

主に県内の起業家や事業者が有する情報通信技術を中心に、ものづくりや建築・土木等の工業技術などを活用し、その課題解決を図っていくプロジェクト。兵庫県内から集めた6つの地域課題、行政課題に対して、技術やノウハウを持った民間事業者から解決策を広く募集した。

超音波で学校に進入する 鹿を撃退

神戸市にあるイーマキーナは電子機器を製造・販売する会社。代表の藤井さんはITと製造、両方の現場を経験してきた。「ITとものづくりの文化は異なり、お互いの知見を入れようしないと感じていました。だからこそ私たちはそれを合わせて事業を行うことにしました」

前職から引き継ぐ形で、超音波を使ってネズミなどの害獣を追い払う機器を製造・販売。周波数や出力ワット数などはシングルボードコンピューターで制御している。イーマキーナの機器が対象にしていたのは主にネズミで、鹿や猪の対策には使われていなかった。鹿や猪には一般的に電気柵が用いられることが多く、超音波は効果がな

いと思われていたのだ。

今回、「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」を知り、「電気柵に頼らない対策をしたい」という募集要項を目にし、「これならできる」と手を挙げ採用された。

課題の地域は新温泉町の学校。グラウンドに鹿が侵入し、平均で1日約1kgの粪を撒き散らす。被害の多い時期は、毎日2人で1時間掃除の時間を取られていた。

イーマキーナでは、従来の機器を屋外でも設置できるよう、ステンレスでカバーを制作。雨の多い新温泉町に対応できるようにした。検証は10月から開始。半減が目標だったが、設置から1週間で、粪の量が1日53gまで激減。4ヶ月継続した結果、1日23gに。「想像以上の結果でした」と藤井さん。この際にゼロにしようと取り組みを続けている。

「行政の仕事をするためには、入札のモデルしかないと思っていましたが、一般公募をして行政と仕事ができるという試みは新しい」と藤井さん。「週に1回、県と新温泉町の教育委員会とミーティングを重ねていますが、こんなに時間を取ってくれるのかというのも感動しました」。公民連携で、地域の課題解決に取り組んでいる。

今後の展開が
楽しみですね



早期退職し夢の古民家暮らし もっと早く移住すればよかった

築180年以上の古民家を改装した民泊「門前庵」を営む藤本雅也さんは、会社を早期退職し多可町に移住。転勤が多く、九州や静岡などで暮らし

た。各地それぞれ魅力はあったものの「孫にすぐ会いに行ける場所」かつ、妻の由美子さんの希望である「ハーブの地植えができる場所」を探し、さまざまな縁でこの地へ。移住の際は古民家再生促進支援事業を利用した。古民家暮らしに長年憧れはあったが、仕事や子育てのことも考えると踏み切れなかったという。「今実際に暮らしてみて思うのは、この地で子育てをしたかったということ。もっと早く移住に踏み切ればよかった」と藤本さん。集落の本家だった建物には、親族が集まるための来客用の布団や冠婚葬祭の食器が大量にあった。それらを片付けつつ建物を修復し、畠仕事もしながら、来客を受け入れ、古民家暮らしや移住についてのリアルな体験を伝えている。

移住の体験談
お話しします！



左上)ステーキを焼くのに使う朴葉も裏の山でとれる。左下)掘りごたつを囲炉裏に改装。囲炉裏の間のほか、和室や洋室がある。右)かまどで炊飯。夫婦ふたりで協力しながら暮らす。

ひょうごに
住む
Live

古民家再生、空き家活用 制度を上手に使って 移住の助けに

県外から県内へ。県内から県内へ。兵庫への移住を
決める人たちは、それぞれさまざまな理由や事情があります。
状況にあった支援制度を上手に利用して、
移住の夢を実現した2組にお話を伺いました。



Column

さまざまな 移住支援制度

地域の大工・建築士等による古民家再生を支援する「古民家再生促進支援事業」。そして空き家を住宅・事業所や地域交流拠点として活用するため改修する際の工事費の一部を助成する「空き家活用支援事業」など。今ある建物を有効活用し、移住や起業に役立つ制度を用意。

定食とおやつを
用意しています

六甲の人気食堂が黒田庄へ 職住一致で生活も楽に



六甲で人気の飲食店「かもめ食堂」を営んでいた船橋律子さんと窪田靖子さん。2008年にお店を始めたから生活の中心はずっと仕事で寝る時間もない程だった。体調も崩し早く生活を変えなければと急いで移住先を探した。以前から自然豊かな場所への憧れがあり四国も検討したが、ふたりの実家はともに兵庫県内。何かあったらすぐ帰れる場所がいいと、県内で物件を探した。コロナ禍で休業要請があっても家賃が無駄にならないよう自宅兼店舗にできる物件を求めるうち西脇市黒田庄へ。西脇市の職員から改装費用の助成が出る「空き家活用支援事業」を聞き活用。「来てみたらすごくいい里山でした。町はものがあふれているけど、買わないと何もない。ここは野菜も水もある」と船橋さん。惣菜が買えると嬉しいといふまわりの生産者の声を聞き、今後は「人を雇ってお惣菜づくりができる」と新しい展開も視野に入れている。



左上)昭和後期に建てられた民家をリノベーションし、自宅兼店舗に。右上)地元の野菜を使った定食を提供。下)「かもめ食堂」の窪田靖子さん(左)と船橋律子さん(右)。

SDGs

ひょうごの
取り組み事例

地域の魅力を現地で体感！

未来へ繋げる 郷土の産業と暮らし

2025年大阪・関西万博に合わせて、兵庫県では県全体を
パビリオンに見立てて発信する「ひょうごフィールドパビリオン」を
展開します。「SDGs体験型地域プログラム」に応募し、
認定された4つの団体の取り組みや地域への思いを紹介します。



「ひょうごフィールドパビリオン」および 「SDGs体験型地域プログラム」とは？

持続可能でよりよい社会の実現には、世界共通の目標であるSDGsの視点が重要です。

兵庫では、歴史も風土も異なる個性豊かな五国において、地域の人々が主体的に課題解決に挑み、未来を切り拓いてきました。「震災からの創造的復興」「人と環境にやさしい循環型農業」「豊穣な大地や海にはぐくまれた食材」「挑戦を繰り返してきた地場産業」「郷土の自然と暮らしの中で受け継がれてきた芸術文化」など、地域を豊かにする取り組みには、世界が持続可

能な発展を遂げていくための多くのヒントが秘められています。

2025年「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される大阪・関西万博を舞台に、こうした兵庫の取り組みを国内外に発信します。

「ひょうごフィールドパビリオン」は、地域の「活動の現場そのもの（フィールド）」を、地域の方々が主体となって発信し、多くの人に来て、見て、学び、体験していただく取り組みです。「ひょうごフィールドパビリオン」を展開するにあたり、それを構成する「SDGs体験型地域プログラム」を募集。第一次認定として113件のプログラムが認定されました。

※プログラムは万博開始まで随時募集。

Our Field, Our SDGs



「豊岡鞄」の技術を活かした
鞄・革小物づくりを体験

豊岡鞄

柳行李の時代から鞄作りが盛んな豊岡。かつては多くの製品がブランドのOEMで豊岡という地名は表に出なかつた。2000年代に入ると鞄の生産が海外に移り、苦しい時代を迎える。2006年に商標法が改正され、「豊岡鞄」は地域団体商標として工業製品の第一号に認定、地域ブランドの先駆者としてさまざまな取り組みを実践。PRの予算が取れない中、全国の百貨店をまわり、SDGsという言葉が生まれる前から革の端材を利用したワークショップを重ねた。次世代に地場産業を伝えるために地元の小学6年生に卒業祝いとして革の小物を贈る。また、SDGsへの取り組みとしてワインの搾りかすや茶殻でなめした革を使うなどサステナブルな鞄作りも続けている。万博期間中は鞄の端材の革を使った小物作りプログラムを予定。「鞄作りを体感してもらえれば」（足立さん）。

写真左上)写真撮影やイベントで大活躍する鞄型の顔出しパネル。右上)拠点施設「トヨオカカバンアルチザンアベニュー」。下)豊岡まちづくり株式会社代表取締役の足立哲宏さん(左)と天野実さん(右)。





淡路島香る

兵庫県 線香協同組合

淡路島の西海岸、江井浦は170年余り続くお線香づくりのまち。昔ながらの佇まいを残す集落には線香工房が寄り集まり、香木の香りがまちに漂っている。廻船業で栄えた港だったが、浦人の暮らしをより豊かにと泉州堺で製造技術を学び、線香づくりが始まった。船乗りや漁師、農家の副業として地域の暮らしに溶け込み、戦後には日本一の生産高を誇るまでに成長した。近年、日々線香をお供えする習慣がなくなりつつあり、次世代への産地承継が課題。「生産者として良いものづくりを追求してきたが、香りの体験をとおして地域の魅力を世界中へ発信していきたい」と兵庫県線香協同組合の谷口さん。プログラムでは線香工房の見学や本格的な線香作り体験を開催予定。体験用の1/1000スケール線香押出機の製作は、地元の洲本実業高校が手がける。島全体の取り組みへと夢は広がる。

写真上) 環境省からお風景100選に選ばれた江井のまち。

左下) 兵庫県線香協同組合事務局長の谷口太郎さん。

右下) 各工房の秘伝が多彩な香りを生み出す。



煙の立ち方にも
こだわりが!



家島の暮らしを知る
まち歩き・体験プログラム

家島諸島都市漁村交流推進協議会

家島でガイドを務める中西和也さんは大阪出身。大学では建築を学んだが、これから人口が減る中、新しい建物を建てるのではなく、今あるものを転用して使うべきではと、中山間地域や離島に着目。採石海運業で栄えた家島に惹かれて2011年に移住した。プログラムの核はまち歩き。中西さんが実際に感じた島の暮らしの魅力を伝える。さらに釣り体験やカヌー体験、アーティストとの作品づくりなどオール家島体制で取り組む。移

住してきてからずっと島の暮らしの存続を目指し活動を続けている中西さんは、児童数減少による学校の存続を危惧している。家島小学校では、漁師の協力のもと、海水を引き込んだプールにハマチやアジなどを放した魚つかみ体験など、家島ならではの学びを提供している。都会ではなじめなかった子も、家島ではのびのび過ごしているそう。「こんな面白い取り組みをしているのだと地域として発信していきたい」(中西さん)。

写真左) まち歩き中、魚屋さんでタコを触る。中) 大小44の島からなる家島諸島のひとつ、無人島の加島で宝探し。右) いえしまコンシェルジュの中西和也さん。



丹波を味わい、
発酵を学ぶ

西山酒造場

俳人高浜虚子命名の日本酒「小鼓」を造る酒蔵。大阪から丹波に嫁いだ女将の西山桃子さんは「こんないい環境が近くにあるなんて、知らなかった！」とカルチャーショックを受ける。お水もお米もおいしくて、採れたての有機野菜もある。厳しくて繊細な仕事をする蔵人へは尊敬の念が絶えない。地域貢献について考える契機となったのは2014年の豪雨災害だった。蔵の中まで土砂が入ったが、連日何十人单位で訪れるボランティアに助けられた。酒造り以外にも地域に恩返しできないか。古い蔵を改修し、丹波の暮らしや発酵に出会える場として、今秋のオープンに向けて準備中だ。プログラムでは、日本酒のペアリングに加え、味噌づくりや塩麹を使った発酵調味料作り、丹波の発酵あづきを使ったおはぎ作りなどを予定。「フィールドパビリオンをきっかけに、ほかの地域で課題に取り組む事業者と出会い勇気づけられた。今後も交流を続けていければ」。

写真上)西山酒造場女将の西山桃子さん。左下)2021年にリニューアルした蔵元直売所。右下)神戸の芸術家・無妨庵こと綿貫宏介氏が外観を手がけた酒蔵「天鼓蔵」。



高浜虚子
命名の「小鼓」



Our Field, Our SDGs MAP



採石海運の
島の暮らし

Ieshima Concierge

家島諸島
都市漁村交流
推進協議会

行って直接
体験しよう！



高品質な
鞄づくりの現場

Toyooka Kaban

豊岡鞄

日本酒と発酵の
文化に触れる

Nishiyama shuzo

西山酒造場

世界に誇る
香りの文化

Awaji Island Koh-Shi Incense

兵庫県
線香協同組合

「HYOGO eスポーツフェスタ in 城崎温泉」大会レポート

兵庫県では、年々注目が高まるeスポーツの、誰もが楽しめるという特性に着目し、地域課題の解決に向けたeスポーツの活用可能性の調査・検討を実施しています。

ゲームが大好きだから
ワクワクしちゃいます！



eスポーツとは「エレクトロニック・スポーツ (Electronic Sports)」の略で、電子機器を用いて行う競技またはスポーツを指す言葉です。国内外で著しい盛り上がりを見せており、日本でも大規模な大会やリーグ戦が開催されています。兵庫県とNTT西日本の主催で歴史ある温泉街城崎温泉を舞台に、「VALORANT」を競技タイトルとして採用したeスポーツイベントが令和4年10月23日(日)に開催さ

れました。近年発展する「eスポーツ」を題材とし、県内観光地と都市部をオンラインでつなぎ競技大会や初心者向けの体験企画を実施することで、地域間の交流や観光地への誘客促進につなげることを目的とした実証事業として実施。競技会場となる城崎文芸館の他、駅前すぐの「さとの湯」では、誰でも参加できるeスポーツ体験ブースを設置し、様々な方がeスポーツの魅力に触れることができました。



ZETADIVISION所属
鈴木ノリアキさん

eスポーツはカルチャー自体が新しい。今大会を通じて県外から兵庫県に若い人が集まる事はすごく大事な事だと思う。若い人を呼び込むのに「eスポーツ」が知らない土地を知つてもらえるきっかけになればと思う。

2012年ごろからeスポーツに触れ始め、Call of Dutyでのプロシーンを作り出した第一人者。



ZETADIVISION所属
XQQさん

プロプレイヤーとして活動後、専任コーチへと転身、日本eスポーツシーンにおけるコーチの第一人者。

HYOGO eSPORTS FESTA
in 城崎温泉



会場になった城崎温泉ってこんなところ

兵庫県北部の日本海に面した関西有数の温泉街で開湯1300年の歴史があります。城崎は温泉のまちとして、奈良時代から人々に愛され続けてきました。まるで古昔にタイムスリップしたかのようなまち並みを残し、「まち全体が大きな温泉宿」の精神で、今もなお多くの方が訪れる日本の温泉街です。

令和4年度に見直しました

ひょうごビジョン2050の策定やコロナ禍による社会潮流の変化を踏まえ、第2期地域創生戦略(2020～2024)の計画期間の中間年にあたる2022年度に中間見直しを行いました。

第二期(2020～2024)

兵庫県地域創生戦略の全体像

地域創生は、人口が減少しても地域の活力を維持し、そこで暮らす人々が将来への希望を持てる地域を実現することです。第二期戦略では“五国”的多様性を活かし、一人ひとりが望む働き方や質の高い暮らしができる地域をつくるという基本理念のもと、地域の元気づくりを第一に、4つの戦略の実現を目指します。

～～ 基本理念 ～～

五国の多様性を活かし、一人ひとりが望む働き方や質の高い暮らしが実現できる地域へ

① 地域の元気づくり

ひと・まち・産業元気プログラム

重点目標1

幅広い産業が元気な兵庫をつくる

- ◆ 兵庫の強みを活かした産業競争力の強化
- ◆ 地域産業の振興
- ◆ 企業立地・投資の促進
- ◆ 起業・創業の適地ひょうごの実現

重点目標2

内外との交流が活力を生む兵庫をつくる

- ◆ 地域資源を活かした交流人口の拡大
- ◆ 定住人口・関係人口の創出・拡大
- ◆ 交流を支える交通基盤の充実

重点目標3

豊かな文化が息づき、安全安心でにぎわいあふれる兵庫をつくる

- ◆ 芸術文化が身边に感じられる地域づくり
- ◆ にぎわいが感じられるまちづくりの推進
- ◆ 安全安心に暮らせるまちづくり
- ◆ 防災・減災対策の総合的推進
- ◆ 次代を担う人材を育成する教育力の強化
- ◆ 全員活躍社会の構築
- ◆ 多文化共生社会の実現
- ◆ 地域生活を維持する革新的技術の普及促進
- ◆ 豊かな環境の保全と創造

達成度を測る指標

- ① 国を上回る1人当たりの県内総生産(GDP)の伸びを維持する
- ② 「住んでいる地域にこれからも住み続けたい」と思う人の割合が前年度を上回る

② 社会増対策

社会減ゼロプログラム

重点目標4

自分らしく働ける兵庫をつくる

- ◆ 地元就業の促進
- ◆ UJIターンの促進
- ◆ 外国人材の活躍推進

達成度を測る指標

- ① 2024年までに日本人社会減ゼロ
- ② 20歳代前半の日本人若者の県内定着率93%
- ③ 5年間で25,000人の外国人の増加

③ 自然増対策 | 子ども・子育て対策

婚姻数拡大プログラム

重点目標5

結婚から子育てまで希望が叶う兵庫をつくる

- ◆ 結婚のきっかけづくり
- ◆ 安心して子どもを産み育てられる環境の整備
- ◆ 子育て応援社会の形成

達成度を測る指標

- ① 2024年まで合計特殊出生率1.41を維持
- ② 「結婚したい」という希望をかなえ、2024年に婚姻数27,000件

④ 自然増対策 | 健康長寿対策

健康寿命延伸プログラム

重点目標6

生涯元気に活躍できる兵庫をつくる

- ◆ 健康づくりの推進
- ◆ 高齢者等誰もが安心して暮らせる環境整備
- ◆ 元気高齢者の社会参加の促進

達成度を測る指標

- ① 平均寿命と健康寿命の差を縮める
- ② 運動を継続している人の割合を高める(目標75%)

▶ 第二期戦略策定後の社会潮流の変化や見えてきた課題

地域経済	・播磨地域を中心に、水素利活用の高いポテンシャル ・第3次産業など県内企業の雇用環境の充実が重要
交流人口	・2025大阪・関西万博や瀬戸内国際芸術祭の開催、 神戸空港国際化を契機とする国内外との交流回復
多自然地域	・集落機能の低下や産業・雇用の縮小などが深刻化 ・地域課題解決に取り組むスタートアップなどが活躍
外国人材	・高度知識・技能を持つ外国人材の採用意欲が上昇 ・外国人の居住環境等における高い優位性
働き方・生き方	・仕事と生活の調和や、多様な人材が柔軟に働き、 安心して暮らせる環境の整備、意識の醸成が重要
地元就業	・若者の就業ニーズに応じた産業の創出や、働きがいなどを重視する若者に魅力的な企業の増加が必要
地方回帰	・コロナ禍により、地方暮らしを希望する人が増加傾向 ・30～40歳代の子育て世代が転入超過に転換
まちづくり	・スポーツチームやイベントが地域への誇りや愛着のきっかけに ・若者の地域愛醸成や地域との交流機会創出が重要
結婚・出産	・コロナ禍の影響もあり、婚姻数や出生数は減少傾向 ・経済面や子育て環境など多面的な取組の充実が必要
児童福祉	・ヤングケアラーなどの支えが必要な子どもや子育て家庭をめぐる課題に対して、社会全体での支援が必要
学びの環境	・課題解決や価値創造等の新たな能力の育成が重要 ・学校施設の改修など、学びの環境の充実が必要

▶ 後期2カ年の重点取組方針

共通基盤

GROWTH DRIVER

～本県の持続的な成長、発展を牽引するための、全ての取組に通じる共通基盤～

- ◆SDGs：持続可能な社会の実現に向けた世界の共通目標であり、全ての主体の行動指針
- ◆公民連携：社会課題の解決に向け、多様な主体のポテンシャルを活かし合う
- ◆DX(デジタルトランスフォーメーション)：時間の制約や距離の壁を越え、付加価値を高める

3つの柱と主な取組

Frontier

～ポストコロナ社会を先導する～

GXの加速 (グリーントランスフォーメーション)

- ・水素サプライチェーンの拠点形成や蓄電池関連産業の集積促進
- ・中小企業の脱炭素化に向けた制度構築・支援強化
- ・脱炭素化に向けた制度の構築・普及

2025大阪・関西万博等を見据えた 関西・瀬戸内交流圏の形成

- ・ひょうごフィールド・パビリオンの展開
- ・兵庫テロワール旅を基軸とした兵庫観光のプランディング
- ・兵庫県域の大坂湾ベイエリアの活性化
- ・瀬戸内エリアとの交流促進
- ・神戸空港国際化を見据えた観光等の戦略的推進

新たな技術や多様なチカラによる 地域課題解決

- ・多自然地域における持続可能な生活圏形成への支援体制の構築
- ・多様な主体によるスタートアップの機運醸成・支援強化
- ・包括連携協定や企業版ふるさと納税など公民連携の取組強化

Return

～地方回帰の流れを捉える～

働き方改革先進県の実現

- ・WLB&DIの促進、ワーケーション、マルチワークなど多様な働き方の拡大
- ・Z世代の就業志向を踏まえた企業のSDGsの取組促進
- ・誰もが自分らしく働くことができる職場づくりの推進

移住施策の強化 (移住推進プロジェクト)

- ・SNS等を活用した情報発信の強化
- ・相談体制の充実(東京圏、大阪における移住相談体制の強化、移住イベントの実施等)
- ・移住体験の提供(移住者との交流会の実施等)
- ・移住環境の整備(空家活用の促進、若者の県内就職・定着の促進、奨学金返済支援等)

シビックプライドの醸成

- ・地域に根ざした産業・文化・営みにSDGsの視点から光を当て、魅力を高めるひょうごフィールド・パビリオンの展開(再掲)
- ・多様なスポーツや芸術文化等による地域活性化
- ・地域内外で活躍する起業家等と若い世代との交流機会の創出

Future

～将来世代への応援を強化する～

結婚・出産・子育て支援の充実

- ・AIマッチングシステムや民間との連携等による出会い支援の強化
- ・奨学金返済支援等による若者世代の経済的負担の軽減(再掲)
- ・不妊症・不育症治療が受けやすい環境整備の推進
- ・家事・育児等に不安を抱える家庭への支援強化

課題を抱える人への支援強化

- ・家族の世話などを日常的に行うヤングケアラーへの支援
- ・課題を抱える妊産婦や児童養護施設の児童、社会的養育経験者等への支援
- ・不登校やひきこもりなどの課題を抱える人への支援

教育への投資強化

- ・県立学校の施設改修や、授業・部活動の環境充実
- ・特別支援学校の教育環境の充実
- ・文理横断型の新学科の創設や国際教育の充実
- ・校務のデジタル化等による教職員の働き方改革
- ・公立・私立高校における国際教育の充実



誰もが希望を持って生きられる 一人ひとりの可能性が広がる「躍動する兵庫」



＼ 五国の多彩な魅力を体感！ ／

次世代につなげる ひょうごの暮らし

